

# 平成 30 年度決算資料

---

令和元年 11 月  
安芸市税務課



1. 市税等決算状況(決算書P16～P19、P230～P233)

(単位:円、%)

税目	予算額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	徴収率	
						H30	H29
市民税	736,342,000	763,749,790	747,665,540	404,980	15,679,270	97.9	97.9
個人	613,000,000	629,206,362	613,916,626	344,980	14,944,756	97.6	97.6
現年	609,000,000	613,940,940	609,113,848	0	4,827,092	99.2	99.3
滞繰	4,000,000	15,265,422	4,802,778	344,980	10,117,664	31.5	30.0
法人	123,342,000	134,543,428	133,748,914	60,000	734,514	99.4	99.4
現年	123,042,000	133,790,400	133,635,400	0	155,000	99.9	99.8
滞繰	300,000	753,028	113,514	60,000	579,514	15.1	61.9
固定資産税	816,500,000	860,306,075	825,870,687	1,240,298	33,195,090	96.0	96.1
純固定	801,000,000	844,490,375	810,054,987	1,240,298	33,195,090	95.9	96.0
現年	793,000,000	811,284,100	802,044,949	417,800	8,821,351	98.9	98.8
滞繰	8,000,000	33,206,275	8,010,038	822,498	24,373,739	24.1	34.5
交付金	15,500,000	15,815,700	15,815,700	0	0	100.0	100.0
軽自動車税	66,800,000	79,123,773	74,488,838	200,234	4,434,701	94.1	93.8
現年	66,000,000	74,482,300	73,189,332	6,000	1,286,968	98.3	98.0
滞繰	800,000	4,641,473	1,299,506	194,234	3,147,733	28.0	27.3
たばこ税	150,000,000	146,832,292	146,832,292	0	0	100.0	100.0
現年	150,000,000	146,832,292	146,832,292	0	0	100.0	100.0
一般会計	1,769,642,000	1,850,011,930	1,794,857,357	1,845,512	53,309,061	97.0	97.0
計							
現年	1,756,542,000	1,796,145,732	1,780,631,521	423,800	15,090,411	99.1	99.1
滞繰	13,100,000	53,866,198	14,225,836	1,421,712	38,218,650	26.4	33.4
国民健康保険税	632,500,000	694,435,920	628,172,512	2,078,862	64,184,546	90.5	90.5
現年	610,800,000	622,136,600	606,608,473	37,900	15,490,227	97.5	97.3
医一	420,000,000	427,975,403	417,631,261	24,000	10,320,142	97.6	97.3
支一	127,000,000	130,007,724	126,922,333	6,400	3,078,991	97.6	97.5
介一	60,000,000	60,996,150	59,123,172	7,500	1,865,478	96.9	96.8
医退	2,000,000	1,975,665	1,835,891	0	139,774	92.9	96.4
支退	1,000,000	587,408	545,463	0	41,945	92.9	96.6
介退	800,000	594,250	550,353	0	43,897	92.6	96.4
滞繰	21,700,000	72,299,320	21,564,039	2,040,962	48,694,319	29.8	29.8
医一	14,000,000	51,340,717	14,864,226	1,172,374	35,304,117	29.0	29.6
支一	4,000,000	11,446,389	3,711,928	258,876	7,475,585	32.4	29.8
介一	3,000,000	8,321,857	2,487,356	186,212	5,648,289	29.9	28.5
医退	500,000	782,756	331,951	275,464	175,341	42.4	43.4
支退	100,000	200,994	80,135	76,069	44,790	39.9	40.2
介退	100,000	206,607	88,443	71,967	46,197	42.8	43.2
市税等合計	2,402,142,000	2,544,447,850	2,423,029,869	3,924,374	117,493,607	95.2	95.1
現年	2,367,342,000	2,418,282,332	2,387,239,994	461,700	30,580,638	98.7	98.6
滞繰	34,800,000	126,165,518	35,789,875	3,462,674	86,912,969	28.4	31.3

固定資産税/交付金:国有資産等所在市町村交付金 たばこ税:市町村たばこ税

科目	H29 決算額	H30 決算額	前年比 (H30-H29)	備考
(一般会計)※歳入				
14款3項1目				決算書 P46～P47
総務費委託金	26,206,077	26,549,262	343,185	県民税徴収取扱費委託金
※個人県民税	412,251,191	406,341,460	▲5,909,731	

## 2. 歳出その他

(単位:円)

科目	H29 決算額	H30 決算額	前年比 (H30-H29)	備考
(一般会計)				
2款1項14目				決算書 P86～P87
諸費				
償還金利子及び割引料	4,849,662	5,233,225	383,563	所得更正による還付金等
2款2項1目				決算書 P88～P91
税務総務費	1,747,752	1,944,658	196,906	
旅費	24,000	77,010	53,010	視察研修旅費
需用費	1,150,229	1,314,958	164,729	図書追録代、コピー代ほか
役務費	11,824	47,714	35,890	車検、保険料(自動車損害共済分担金)
使用料及び賃借料	21,800	12,940	▲8,860	ETC使用料、駐車場料金ほか
備品購入費	86,400	0	▲86,400	
負担金補助金及び交付金	451,499	481,836	30,337	軽自動車税運営協議会負担金ほか
貸付金	2,000	2,000	0	釣銭(レジ用)
公課費	0	8,200	8,200	自動車重量税
2款2項2目				決算書 P90～P91
賦課徴収費	24,999,773	16,161,369	▲8,838,404	
賃金	0	0	0	臨時職員賃金
需用費	5,031,158	3,496,166	▲1,534,992	納税通知、督促状印刷ほか
役務費	6,952,107	5,588,762	▲1,363,345	郵便料、調査手数料ほか
委託料	11,550,337	4,727,792	▲6,822,545	家屋評価システム保守ほか
使用料及び賃借料	776,520	1,820,356	1,043,836	電子申告オプションサービス利用料ほか
備品購入費	179,280	12,555	▲166,725	手提金庫
負担金補助金及び交付金	310,371	315,738	5,367	地方税電子化協議会会費
貸付金	200,000	200,000	0	つり銭
(国保会計)				決算書 P252～P253
6款1項1目				
一般被保険者償還金及び 還付加算金	2,536,700	1,659,800	▲876,900	所得更正・国保資格喪失による還付金等
6款1項2目				
退職者被保険者等償還金 及び還付加算金	0	0	0	所得更正・国保資格喪失による還付金等

### 3. 課税状況

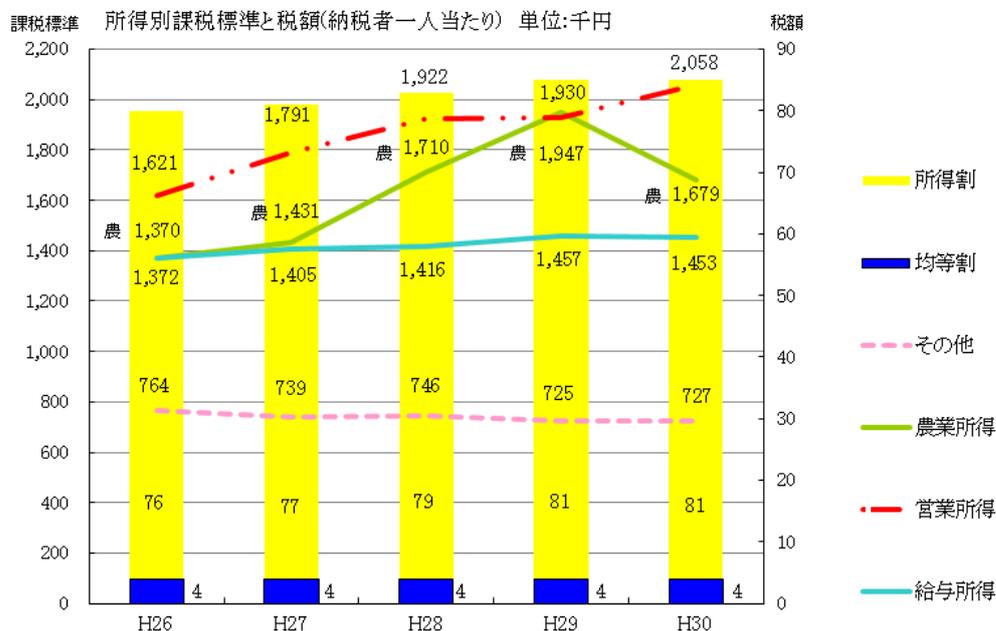
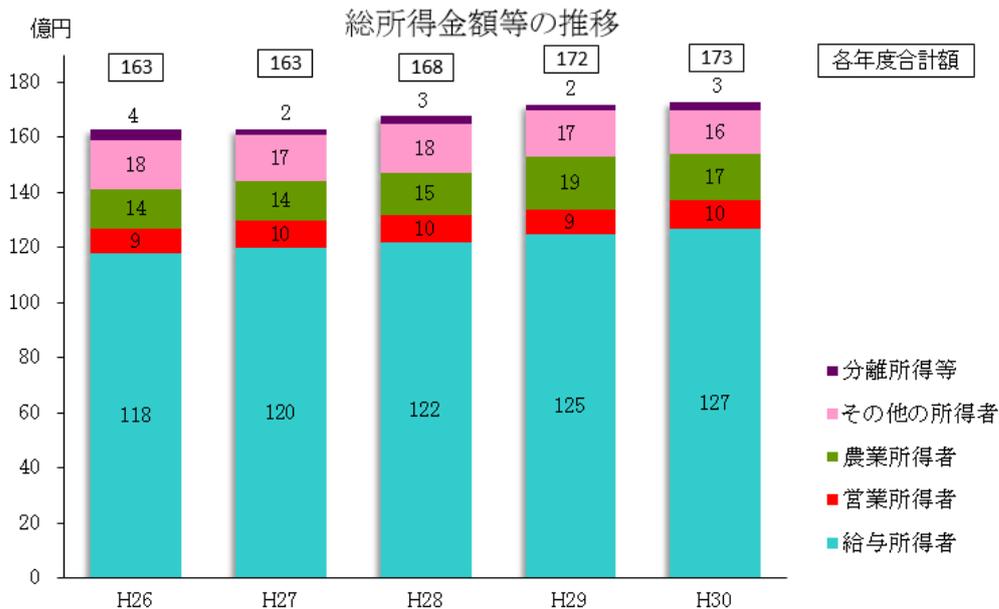
#### (1) 個人市民税

課税標準額及び所得割の納税義務者数は、給与所得、営業所得で増加し、課税標準額、所得割納税義務者数とも昨年を上回った。

総所得の状況

区分	課税標準額(百万円)			所得割納税義務者(人)		
	H29	H30	増減	H29	H30	増減
給与所得	7,395	7,491	96	5,074	5,158	84
営業所得	575	634	59	298	308	10
農業所得	1,137	927	▲ 210	584	552	▲ 32
その他	827	792	▲ 35	1,141	1,090	▲ 51
分離所得	166	266	100	47	49	2
計	10,100	10,110	10	7,144	7,157	13

資料: 課税状況調



【課税金額と納税義務者】

課税の状況

区分	課税金額 (千円)			納税義務者(人)		
	H29	H30	増減	H29	H30	増減
現年度分	決定年税額	612,959	609,805 ▲ 3,154	8,380	8,463	83
	内訳 均等割	29,327	29,606 279	1,216	1,273	57
	所得割	583,632	580,199 ▲ 3,433	7,164	7,190	26
過年度分	決定年税額	4,624	1,494 ▲ 3,130	111	79	▲ 32
	内訳 均等割	60	78 18	17	47	30
	所得割	4,564	1,416 ▲ 3,148	104	77	▲ 27
合計		617,583	611,299 ▲ 6,284	8,491	8,542	51
会計年度調整(特別徴収4・5月分)		△ 1,139	△ 1,213 ▲ 74			
分離課税分(退職所得)		4,671	3,855 ▲ 816			
調定現額		621,115	613,941 ▲ 7,174	8,491	8,542	51

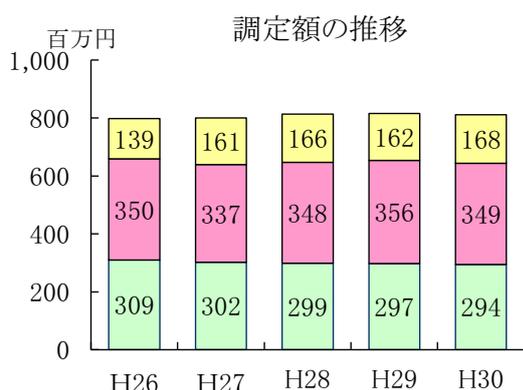
(2) 法人市民税

法人	資本金	従業員	法人数 (人)			均等割額 (千円)			法人税割額 (千円)		
			H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減
1号	1千万円以下	50人以下	262	257	▲ 5	15,505	15,051	▲ 454	11,208	9,963	▲ 1,245
2号	1千万円以下	50人超	2	2	0	288	288	0	1,957	1,276	▲ 681
3号	1億～1千万円	50人以下	73	70	▲ 3	10,901	10,491	▲ 410	5,617	7,540	1,923
4号	1億～1千万円	50人超	4	4	0	720	810	90	495	2,583	2,088
5号	10億～1億円	50人以下	20	23	3	3,828	4,080	252	22,784	19,092	▲ 3,692
6号	10億～1億円	50人超	1	1	0	648	480	▲ 168	688	361	▲ 327
7号	10億円超	50人以下	30	34	4	13,776	14,928	1,152	17,074	22,007	4,933
8号	50億～10億円	50人超	1	1	0	2,100	3,675	1,575	2,235	3,050	815
9号	50億円超	50人超	2	2	0	10,800	7,200	▲ 3,600	4,685	10,915	6,230
計			395	394	▲ 1	58,566	57,003	▲ 1,563	66,743	76,787	10,044

均等割額+法人税割額(千円)			
H28	H29	H30	増減
128,319	125,309	133,790	8,481

(3) 固定資産税

土地は、平成 30 年度評価替えにより約 270 万円の減となった。H21 年度評価替え以降、地価下落が続いているが、近年の下落幅は小さく、ほぼ横ばい傾向となっている。家屋は、平成 30 年度評価替え及び新增築・滅失等により約 708 万円の減となった。償却資産は、資産の新規取得、特例措置期間の満了及び減価償却等により約 610 万円の増となった。

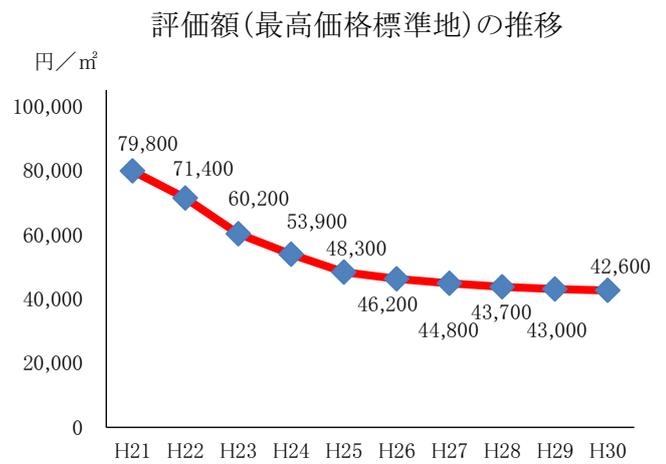
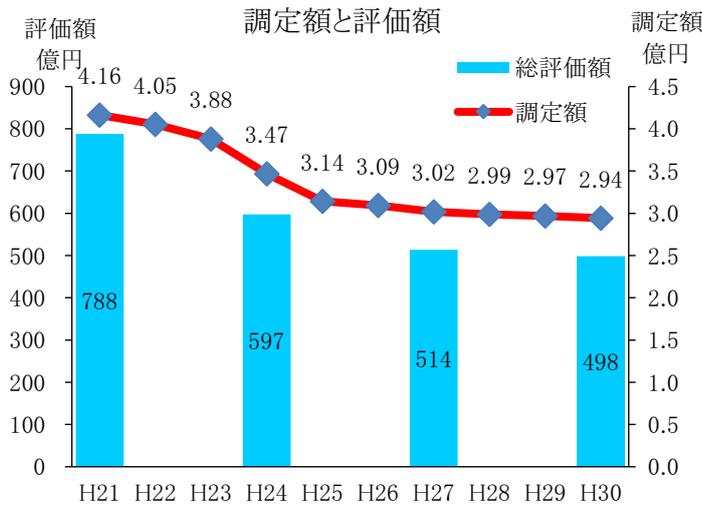


(単位:千円)

年度	土地	家屋	償却	調定計
H30	294,330	348,908	168,046	811,284
H29	297,038	355,990	161,942	814,970
H28	298,901	348,334	165,975	813,210
H27	301,655	337,439	161,194	800,288
H26	309,370	349,675	139,171	798,216

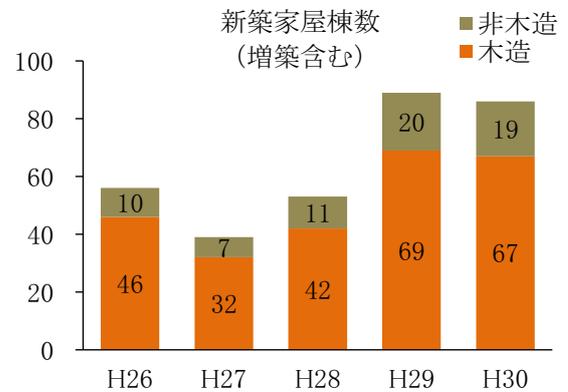
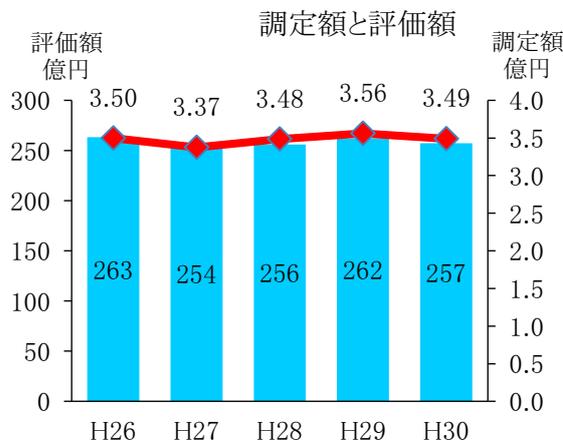
◆ 土地

平成 21 年度の評価替え以降、地価の下落が続いており、平成 30 年度評価替えにおいても、下落率は縮小したものの地価の下落は続いており、課税額も微減となった。



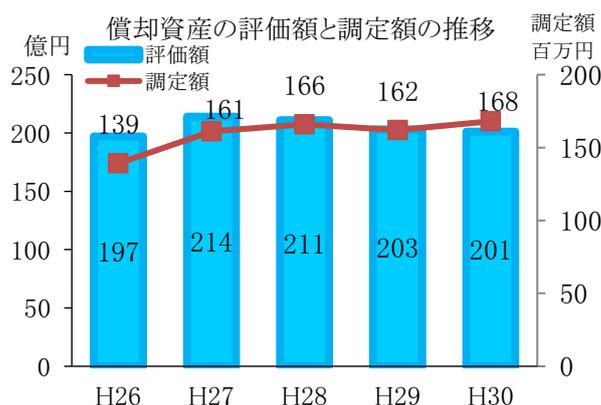
◆ 家屋

新增築棟数は、平成 23 年度を除き、平成 18 年度以降減少傾向にあったが、平成 28～29 年度にかけては、内原野住宅団地の分譲のほか、道路建設にかかる立ち退き等での建替えや、巡回調査等による把握などで増加傾向となっていた。平成 30 年度においても、この状況は続いており、新增築件数は比較的高い水準を維持した。



◆ 償却資産

平成 18 年度以降、新たな設備投資は少なく、評価額の下降が続いていたが、平成 27 年度は大規模な太陽光発電設備の供用開始により増加した。平成 30 年度は、減価償却等による減額要因を新規取得及び特例措置期間の満了による増額要因等が上回り、約 610 万円増加した。



#### (4) 軽自動車税

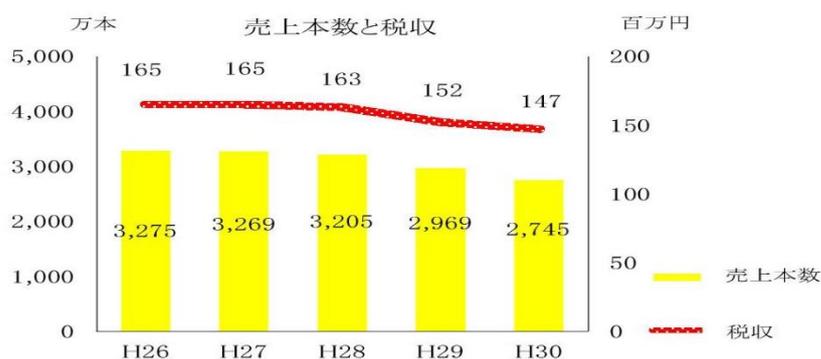
課税台数については全体的な減少傾向の中、軽四乗用(自)の標準課税(H27～)と重課税の台数が増となっている。課税台数全体は減となっているが、高い税率の台数が増えたため、調定額が増となっている。

軽自動車の状況

現年分 区分	H29 税額 (円)	H30 税額 (円)	課税台数			課税金額 (千円)		
			H29	H30	増減	H29	H30	増減
原付50cc	2,000	2,000	1,659	1,575	▲ 84	3,318	3,149	▲ 169
原付90cc	2,000	2,000	215	203	▲ 12	430	406	▲ 24
原付125cc	2,400	2,400	167	165	▲ 2	401	396	▲ 5
ミニカー	3,700	3,700	16	18	2	59	67	8
軽二輪	3,600	3,600	214	204	▲ 10	770	734	▲ 36
三輪車	3,900	3,900	2	2	0	9	9	0
軽四乗用(営)								
標準課税	5,500	5,500	2	2	0	11	11	0
標準(H27～)	6,900	6,900	1	0	▲ 1	7	0	▲ 7
重課税	8,200	8,200	0	0	0	0	0	0
小計			3	2	▲ 1	18	11	▲ 7
軽四乗用(自)								
標準課税	7,200	7,200	3,279	2,965	▲ 314	23,609	21,348	▲ 2,261
標準(H27～)	10,800	10,800	401	715	314	4,331	7,722	3,391
重課税	12,900	12,900	1,182	1,240	58	15,248	15,996	748
50%軽課	5,400	5,400	157	91	▲ 66	848	491	▲ 357
25%軽課	8,100	8,100	120	134	14	972	1,086	114
小計			5,139	5,145	6	45,008	46,643	1,635
軽四貨物(営)								
標準課税	3,000	3,000	26	23	▲ 3	78	69	▲ 9
標準(H27～)	3,800	3,800	10	15	5	38	57	19
重課税	4,500	4,500	8	7	▲ 1	36	32	▲ 4
25%軽課	2,900	2,900	1	6	5	3	17	14
小計			45	51	6	155	175	20
軽四貨物(自)								
標準課税	4,000	4,000	1,911	1,669	▲ 242	7,644	6,676	▲ 968
標準(H27～)	5,000	5,000	319	528	209	1,595	2,640	1,045
重課	6,000	6,000	1,595	1,594	▲ 1	9,570	9,564	▲ 6
25%軽課	3,800	3,800	21	15	▲ 6	80	57	▲ 23
小計			3,846	3,806	▲ 40	18,889	18,937	48
農耕	2,000	2,000	1,097	1,074	▲ 23	2,194	2,148	▲ 46
特殊	5,900	5,900	46	46	0	271	271	0
自動二輪	6,000	6,000	257	256	▲ 1	1,542	1,536	▲ 6
計			12,706	12,547	▲ 159	73,064	74,482	1,418

#### (5) 市町村たばこ税

たばこ販売本数は、昨年度より約7.5%減少、税収は約3.9%減少。



(6) 国民健康保険税

市全体の人口減などに伴い、国保被保険者数(▲256人)、世帯数(▲99世帯)が減少し、課税額も減少した。

減額判定所得を引き上げ対象世帯を拡充したが、低所得者にかかる軽減額(2・5・7割軽減)は3.6%減少した。

【税率】

税率	所得割	資産割	均等割	平等割	課税限度額
医療分	7.7% (8.0%)	— (35.0%)	26,000円 (25,000円)	22,000円 (27,000円)	58万円 (54万円)
支援金分	2.5% (2.6%)	— (10.0%)	6,800円 (5,800円)	6,000円 (5,600円)	19万円 (19万円)
介護分	2.3% (2.5%)	— (7.0%)	10,000円 (9,000円)	5,000円 (6,000円)	16万円 (16万円)

( )内は前年度税率

【課税年税額と世帯数】

(単位:千円、世帯)

区 分		H29	世帯数	H30	世帯数	増 減	世帯数	
医 療 分	現 年 分	<b>課税年税額</b>	493,531	3,988	<b>426,774</b>	3,889	<b>▲ 66,757</b>	<b>▲ 99</b>
	内 訳	一 般	487,549	3,953	424,811	3,881	▲ 62,738	▲ 72
		退 職	5,982	35	1,963	8	▲ 4,019	▲ 27
	過年度分年税額		2,782		<b>3,178</b>		<b>396</b>	
支 援 金 分	現 年 分	<b>課税年税額</b>	144,478	3,988	<b>129,649</b>	3,889	<b>▲ 14,829</b>	<b>▲ 99</b>
	内 訳	一 般	142,810	3,953	129,066	3,881	▲ 13,744	▲ 72
		退 職	1,668	35	583	8	▲ 1,085	▲ 27
	過年度分年税額		855		<b>946</b>		<b>91</b>	
介 護 分	現 年 分	<b>課税年税額</b>	70,397	2,087	<b>60,990</b>	1,996	<b>▲ 9,407</b>	<b>▲ 91</b>
	内 訳	一 般	68,619	2,000	60,399	1,950	▲ 8,220	▲ 50
		退 職	1,778	87	591	46	▲ 1,187	▲ 41
	過年度分年税額		437		<b>600</b>		<b>163</b>	
<b>決定年税額の合計</b>		<b>712,480</b>		<b>622,137</b>		<b>▲ 90,343</b>		

退職者数(人)

68

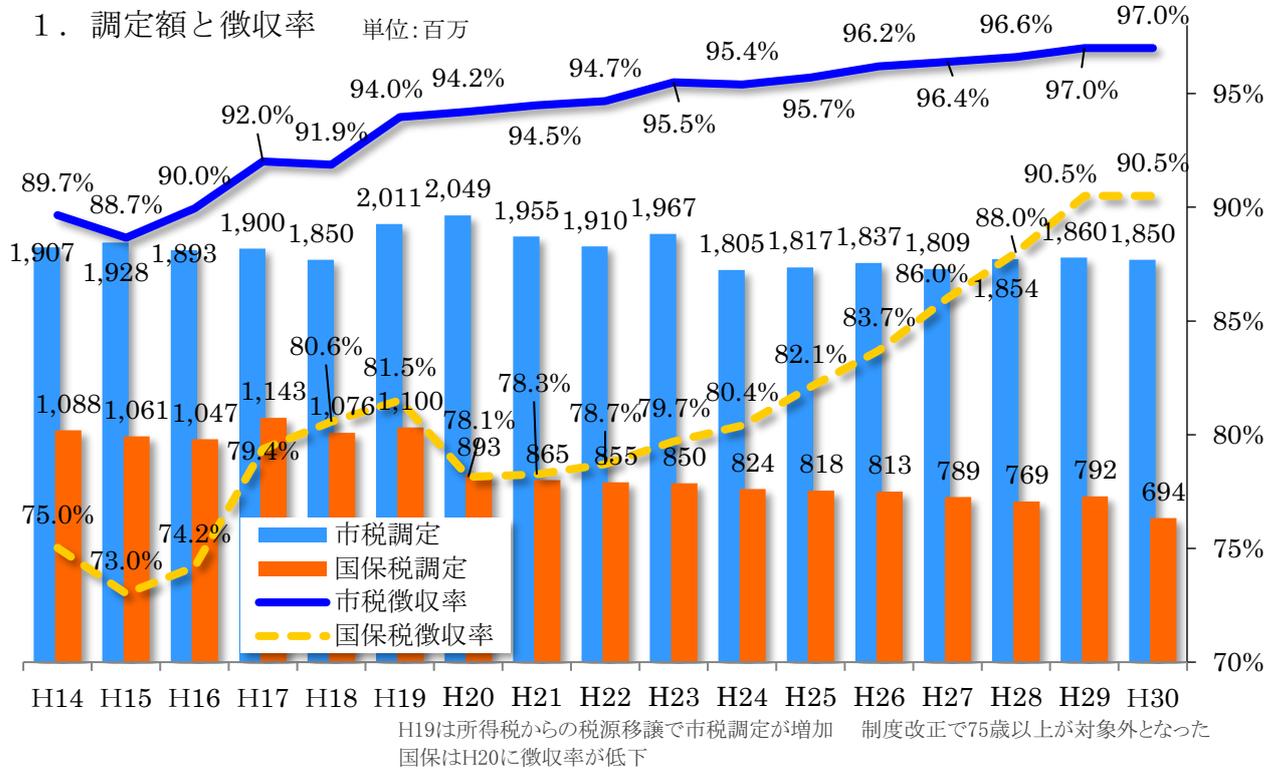
13

※退職(被保険者)…国保被保険者のうち、退職して年金を受けている64歳以下の方など

職場などの社会保険が出し合う拠出金によって、市の負担分については補助が受けられる。

#### 4. 収納状況

国保税も含めた収納率は95.2%で昨年度から0.1ポイント上昇した。市税収納率の現年度分は99.1%と前年度と同じであったが、滞繰分が26.4%と7.0ポイントの減であった。市税全体の収納率は97.0%と前年度と同じであった。国保税の現年度分は97.5%で昨年度より0.2ポイントの増、滞繰分は29.8%と前年度と同じであったが、現年度調定額が大幅に減ったこともあり、国保税全体の収納率は90.5%と前年度と同率であった。



#### (1) 督促

昨年度と比べ、督促数は30件減少した。

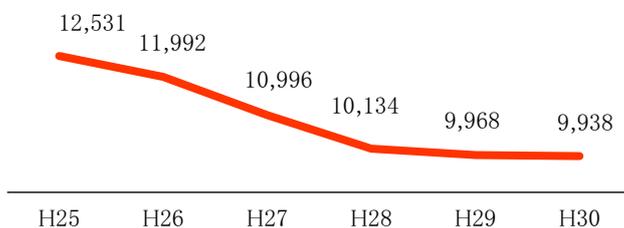
##### 【督促状発送数】

(単位:件)

税目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
個人市民税	3	1	349	1	306	1	307	4	8	308	2	4	1,294
〃(特徴)	26	32	44	38	34	31	36	28	31	0	64	41	405
法人市民税	0	6	1	0	1	2	1	2	1	0	0	0	14
軽自動車税	1,264	13	0	4	0	3	0	0	0	0	0	1	1,285
固定資産税	887	0	0	758	4	1,063	0	4	625	5	10	9	3,365
国保税	13	1	4	493	500	504	456	383	434	419	361	7	3,575
計	2,193	53	398	1,294	845	1,604	800	421	1,099	732	437	62	9,938

※軽自動車税は車両ごとに督促 ※個人市民税特徴の2月は1月分督促が3月1日発送のため2月は0件

##### 【督促状発送数の推移】



(2) 滞納処分

◆差押

(件数)

財産調査は、件数よりも一つの調査で得られる情報から新たな調査に発展させるなど質を重要視し、差押から自主納付に導いて完納に至ることを目指した。件数は前年度から52件増加した。

搜索は15件。

差押債権	市税	国保税	計	前年比
預貯金	97	55	152	49
給料・年金	30	14	44	7
生命保険	16	26	42	6
各種還付金	10	12	22	3
不動産	6	3	9	3
出資金	1	0	0	▲1
動産	2	3	5	▲3
その他	19	8	27	▲12
合計	180	121	301	52

◆交付要求（強制換価手続に参加して配当を受けようとする。）

滞納税額合計3,589,343円にかかる9件について交付要求した。（自らの差押への交付要求は除く）

◆滞納処分の停止（処分可能財産がないとき等、滞納処分の執行を停止できる。）

滞納者が職権消除されるなど徴収できないことが明らかな場合の即時消滅など36件を停止した。

(3) 不納欠損処分

不納欠損総額は、昨年度から15.2%増となった。その内、法に基づく欠損処理である執行停止3年経過による欠損が昨年度比44.9%と減少した。これは平成27年度の執行停止の額が前年度より少なかったこと、不動産の登記名義人が死亡し、相続人が全員相続放棄したことによる納税義務者不存在の相続財産法人が増加傾向にあることが考えられる。滞納処分を着実に実施するとともに、真に資力がないと確認できた案件などについて積極的に執行停止の判断を行うことが必要である。今後も、徹底した調査に基づく執行停止判断を迅速・的確に行い、時効完成による欠損が無くなるよう努めていく。

税目	処分停止後3年			即時欠損			時効欠損			計			前年度計	比較
	件	人	円	件	人	円	件	人	円	件	人	円		
個人市民税	11	2	39,592	4	1	35,864	30	10	269,524	45	13	344,980	249,609	+38.2%
法人市民税			0	1	1	60,000			0	1	1	60,000	0	
固定資産税	13	2	24,400	2	2	417,800	116	37	798,098	131	41	1,240,298	724,253	+71.3%
軽自動車税	9	4	53,834	11	2	50,000	23	15	96,400	43	21	200,234	194,416	+3.0%
計	33	8	117,826	18	6	563,664	169	62	1,164,022	220	76	1,845,512	1,168,278	+58.0%
国保税	59	10	325,780	66	1	623,200	96	18	1,129,882	221	29	2,078,862	2,238,918	-7.1%
合計	92	18	443,606	84	7	1,186,864	265	80	2,293,904	441	105	3,924,374	3,407,196	+15.2%

※件数は期別毎にカウント

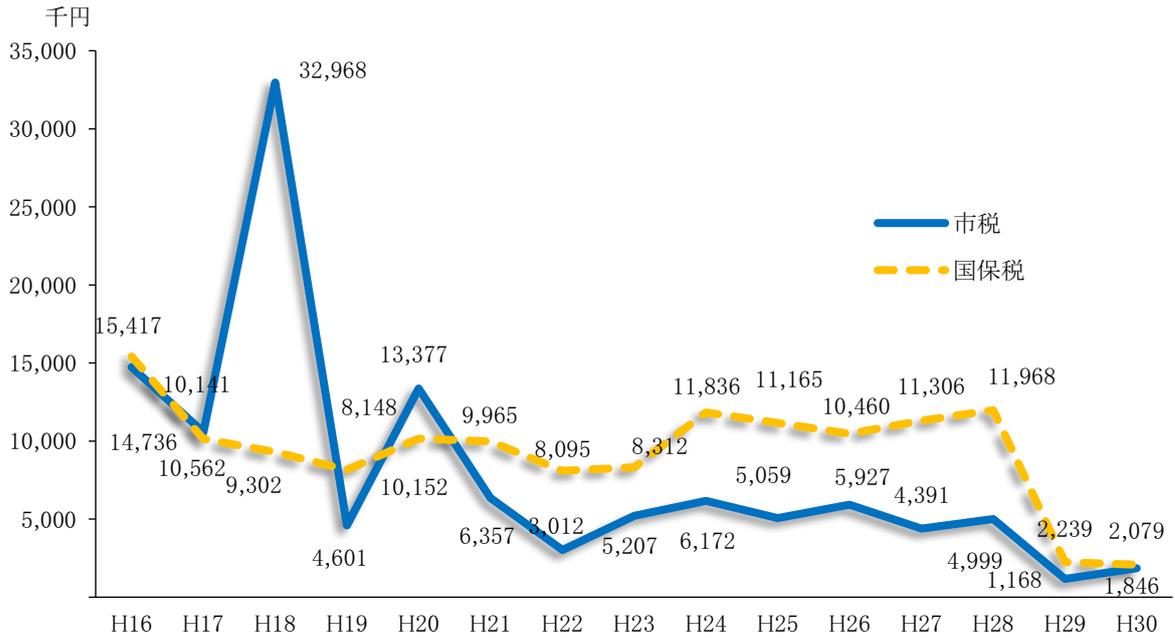
※1:滞納処分の停止が3年間続くと徴収権が消滅する(地方税法15の7④)

※2:徴収できないことが明らかな場合は即時消滅できる(地方税法15の7⑤)

※3:5年間徴収権を行使しないと時効により消滅(地方税法18①)

これらを表示する決算上の処分を不納欠損という。

【不納欠損額の状況】



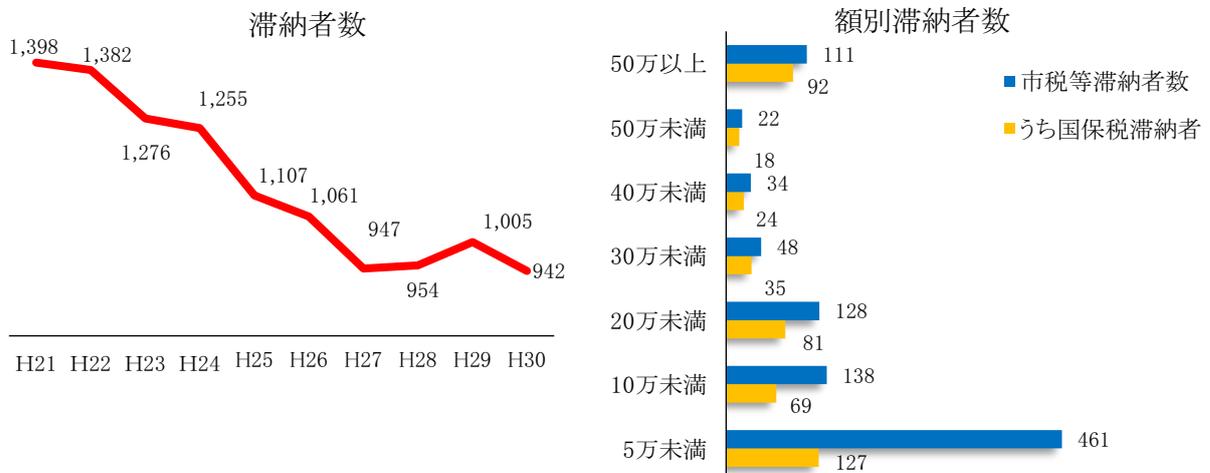
(4) 収納未済

滞納者数は、942人で、昨年度と比較し63人の減となっている。

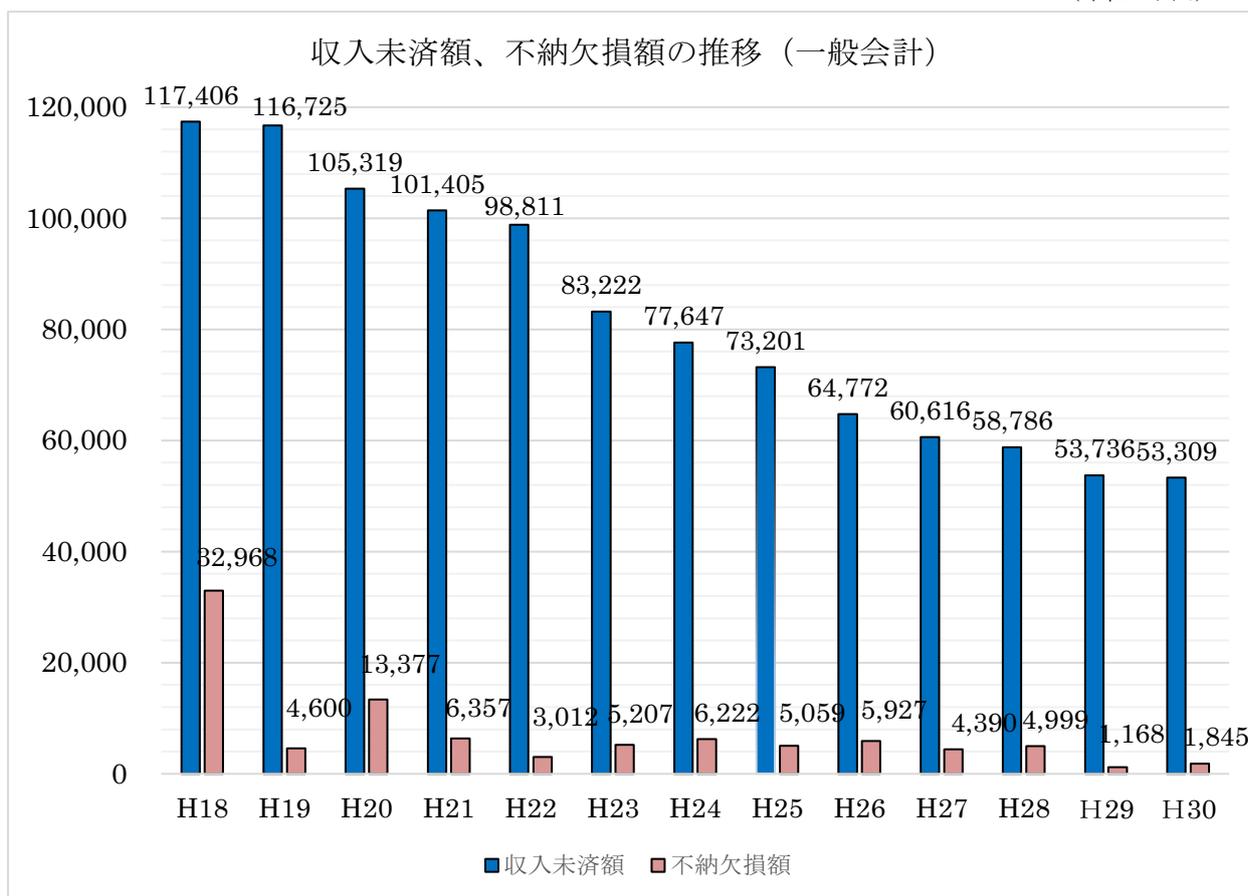
累積滞納額を減少させるため、滞納繰越分の徴収とともに、現年度からの滞納繰越額を増やさないよう努めており、その結果、平成30年度末の収納未済額は、前年度末から893万円の圧縮となった。

不納欠損危惧者を中心に財産調査(所内調査以外で預金601件、給与・年金109件、生命保険521件、売掛金その他132件の合計1,363件)を実施し、これに基づき滞納処分を行った。

財産を発見し次第、滞納処分に早期着手することに努め、納税意識の向上につなげる体制をより一層強化していく必要がある。また、滞納処分可能な財産が発見できず停滞しているものについては、法に基づく処分停止等により累積滞納額を圧縮することが引き続き重要課題の一つである。



(単位:千円)



(単位:千円)

